

## みつ き 合同会社 光稀

東京都足立区舎人 3-1-3-101



## COLUMN

芦原さんご夫妻の親友である力士・響龍氏は 2021 年 3 月の春場所で負傷し、緊急搬送された 1 カ月後にこの世を去った。その試合の前日、ご夫婦は電話で「試合頑張れよ」と激励し、彼も「お前たちも大変だけど頑張れよ」と会社の存続の危機の中、二人を気遣ってくれたという。搬送後、コロナ禍のためお見舞いに行くこともできず、時折 LINE で連絡を取り合っていた。響龍氏の正確な容態が分からない中、会えないままに別れは訪れてしまったようだ。その後『光稀』を設立したご夫妻は、初年度の決算を終え、響龍氏の誕生日で会社設立日でもある 3 月 17 日に響龍氏の実家を家族全員で訪問。お墓にご挨拶をして彼のお母様と一緒に響龍氏の誕生日をお祝いした。「響龍は心優しく、いつも笑顔で温かい人だったので、彼の本名を会社名として頂いた以上、しっかり会社を守り成長させたいです。そしていつか天国で彼に会えた時には、『うちの会社は光稀みたいに誰からも愛される温かい会社になったよ』と伝えたいです」とご夫妻は語る。日々こつこつと、まずは二期目の決算となる彼の誕生日に良い報告ができるように、夫婦で邁進していく。

# 夫婦の固い絆で事業に取り組み従業員の

『光稀』は電気設備や通信設備の工事を手掛ける電気のプロフェッショナルだ。芦原史加代表と、夫で業務執行役員を務める直昭氏が適材適所で業務を担い、事業を成長させている。会社の創業や堅調な歩みの背景には、ご夫婦の親友であり、早逝したある力士や従業員たちへの強い思いがあった。本日は俳優の大沢樹生氏が、お二人にインタビューを行った。

## 生涯のパートナーと共に コロナ禍で再起を懸けて起業する

——芦原さんご夫妻のこれまでの歩みからお聞かせください。

(直) 子どものころからやんちゃで両親には色々と迷惑をかけていましたね。元々父が 44 年続く電気工事会社を営んでおり、私は長男なので後継を見据えて高校卒業後は電気の専門学校で学び、学業を終えてすぐに家業に入りました。

(史) 私と夫は高校の同級生として出会い、高校 3 年生から付き合い始めて、そのまま結婚したんです。私は学業修了後は福祉施設で働いていましたが、妊娠中

のつわりが酷くて退職してからは、義父の会社で経理を担当していました。

——お二人共、お義父様の会社で働いておられたのですね。代表は経理のご経験はあったのですか。

(史) それが、全くなくて……。一人目の子どもが 9 カ月の時に入社しましたが、前任者からの引き継ぎ期間は 3 カ月しかなく、ほとんど自力で覚えました。子どもを他所に預けたくなかったので、おんぶしながら必死に働いていました。

(直) 妻はやると言ったら必ずやり遂げる根性の据わった女性なんですよ。私も妻には頭が上がらず、基本的には彼女が決めたことに、私は「はい」と答えるだけです。妻が経営や経理を担っており、現場は私が統括していますが、仕事を取ってきた時も「こんな感じです」と妻に確認と了承を取っています。

——それぞれのフィールドで活躍されているのですね。『光稀』さんはお二人で立ち上げられた会社だと伺っていますが、起業の経緯を伺っても？

(史) 独立を決めた理由はいくつかありますが、一番のきっかけは今の時代に合った職場環境の会社をつくりたいと

思ったからなんです。私が 3 人目の子どもを出産する時には会社の経理をほとんど任されていたので産休・育休が一切取れず、ギリギリまでパソコンを持って分娩台に上がり、出産後すぐに提出期限が迫る書類を作っている状態でした。こうした環境では私だけでなく従業員も皆、育児に向き合えないと思ったんです。それに加えて、コロナ禍で経営状況が悪化したことも理由の一つです。売上がなくても従業員を雇用している以上、給料を支払わなければいけません。義父も高齢でなかなか行動に移せない中、どうにかしなければということで夫と相談し起業を決めました。

——コロナが契機だったのですね。

(直) 後継の話は数年前から出ていましたが、自分の中で親には長く元気で会社を続けてほしいという気持ちがどこかにあり、なかなか踏ん切りがつかずにいたんです。しかし、失業寸前でいよいよ後がないということで決断しました。

(史) 育児をしながら働けたのは自営業だったからですし、他社に勤めることで子どもたちに寂しい思いをさせたくないという気持ちも強かったですね。

——ご家族や従業員さんたちのためにも行動されたわけだ。

(直) 状況的に私の気持ちも参ってしまっていたのですが、その中でも妻が支えてくれたので、諦めずに取り組むことができました。妻は私にとって本当に最高のパートナーだと思っています。

# 人生がより豊かに輝く企業を目指していく

## 家族、従業員、親友への思いを胸に より良い会社づくりを目指して歩む

——起業後は順調に歩めましたか。

(直) 父の会社には 10 名ほどの従業員がいましたが、起業すると聞いて皆がついてきてくれたんですよ。

(史) 今は一番上が 60 代、一番下が 20 代の計 11 名が働いています。前職で外注の職人さんだった方が従業員として入社してくれるなど、本当にありがたかったですね。私たちだけだったら諦めていたかもしれませんが、従業員や家族のためにという思いが原動力になりました。

——人望がおありですね。

(史) また、大切な親友への思いも力になりました。社名の『光稀』は私たちの親友である、[響龍]というお相撲さんの本名「天野光稀」さんからもらっています。彼は取組で負傷して入院していた令和 3 年 4 月に亡くなってしまいました。その彼が平成 5 年 3 月 17 日生まれだったので、令和 5 年 3 月 17 日に『光稀』を設立したんです。実は夫もコロナに感染した際、疾患等があることが判明して 2 週間昏睡状態に陥ったことがあるんです。こうした経験から日常の儚さやその尊さを痛感しました。夫には色々と苦労させられていますが(笑)、この仕事だからこ子どもとの時間を大切にできていますし、それが私にとっては何よりも幸せですから、夫にもこのまま自由に自分らしく生きていってほしいです。

——ご夫婦の大きな愛情を感じます。今後についてはいかがですか。

(史) 以前、息子が通う小学校でキャリア教育があり、電気工事会社『光稀』として授業をさせていただいたことがあるんです。その時の子どもたちの楽しそうな様子を見て、将来その子たちが大きくなった時にキャリア教育の授業を思い出し、『光稀』で働きたい」としてもらえ会社にしたいと感じましたから、それを実現したいですね。後日、学校の子どもたちからお礼のお手紙を頂いて、改めて会社を設立したこと、そしてキャリア教育の授業を行ったことを良かったと感じましたし、より一層頑張ろうと気持ちが引き締まりました。

(直) 大きな会社を目指すのではなく、従業員が産休や育休を取得したり、取りたい資格を取れたりするような、安心して働ける環境をつくりたいです。そして利益は従業員に還元し、人生も仕事も充実できて引退時には「ここで働いていて良かった」と思える会社になりたいですね。

(取材／2025 年 3 月)



代表 芦原 史加



業務執行役員 芦原 直昭

## After the Interview

「創業時、コロナ禍でどのように仕事を獲得したのか伺ったところ、前職では大きな現場に入る寸前だったそうで、その仕事を引き継がせてくださいとご夫婦でお願いに行かれたそうです。従業員さんを引き継いだということで、先方も快く了承してくださったとか。他者のために行動するお二人だからこそ、信頼や人望を得られるのでしょうね。今後もお二人で力を合わせてどんな壁も乗り越えていってください!」

大沢 樹生・談



ゲスト  
(俳優)  
大沢 樹生